

平成 22 年度 すぎなみ大人塾（昼）コース

だがしや楽校を開こう！ ～持ち味のおすそ分けと語り合いが未来を拓く

学習支援者：松田道雄 高千穂大学教授

学習支援補助者：谷原博子 杉並区教育委員会・地域コーディネーター

平成 22 年 6 月 18 日（金）ガイダンス：「だがしや楽校って、何なの？」

会場：あんさんぶる荻窪 5 階 第 2 会議室

< 第一部 >

1 松田道雄さんより「だがしや楽校って、何なの？」

1) 近代の社会と人口構成を現在のものと比較して「学び」を考えてみたいと思いま

す。まず、近代の社会と人口構成をモデル化しますと、ピラミッド型の頂点に高齢者がいて、逐次、下になるに従い人口が増え、底辺が生まれて間もない 1 歳児となり、三角形が構成されています。

2) この時代は、人が増え続けていくことが前提となっているので、分かりやすい社会モデルになっています。例えば、学校制度もその一つです。小中学校の義務教育は、社会で生きていくために必要な知識である日本的な礼節に始まり、基礎的な学力を養うことに重点が置かれていました。高校・大学も、社会に出て会社で働くための教育が主なものです。教えるの基本は、先生の言うとおりのことを理解することが前提になっていますし、テストの評価が代表的なものです。

学校教育が、このようにステレオタイプになっていました。学校教育制度の中で過ごす児童・生徒以外の方は、社会教育という領域で、大人世代の学びをするのですが、学校教育と学び方が同じように見える場合がありました。行政の社会教育施設では、主婦層や定年を迎えた男性等を中心に個性を生かす社会教育システムが機能していました。

3) 一方、現在の人口構成を考えてみてください。ピラミッド型の頂点にいた方が多くなる。高齢者が比較的多くなり、今後も増える見込みです。60 代 50 代が、年齢構成の中心となり、さらに上の年齢層を支える形になっています。また、年齢が下がるにつれて人口が少なくなります。今後人口は増えることは期待できない状態です。そこで、この時代の社会教育の在り方を考えたいと思います。すなわち、「だがしや楽校」とは何をするところなのか？

「だがしや楽校」で学ぶことは何でしょうか。私たち、大人世代の学習では、お互いに学びあうことが基本となります。私たちは、まず、試行錯誤する方法や、試行錯誤して会得した経験等をお互いに分かち合う方法などを伝えあい、お互いに学んでいくこと、

それが「だがしや楽校」の基本精神となります。

懐かしの駄菓子屋のおばちゃんは、店に買いに来る子どもに駄菓子と共に、何かメッセージを出していませんか？おばあちゃんが体験会得した様々な智慧等を教えるでなく、諭すでなく自然体で話していたのではないかと思うのです。おばあちゃんの自然体の会話の中で育ち、学んで行ったと考えています。この駄菓子屋のおばちゃんの在り方を、社会教育の領域に持ち込んだものが「だがしや楽校」なのです。

< 付録 > 松田道雄さんの投稿録

「だがしや楽校」の講座で学ぶことは？ 松田道雄 平成 22 年 6 月 7 日投稿

概要：「だがしや楽校」は、自分と社会のあり様を現実の場づくり出ししてみる最も手軽な最小の集いとして考えました。主題は、私と社会（世界）です。

2 学ぶ手がかり

1) 自分は何者なのか、自分を見せる

「だがしや楽校」は、自分と自分がいる社会のあり様を現実の場で体感できるツールとして考え出されたものです。自分と他者との関係をどのように自分は向き合うのかを考えるためのものです。

2) 自分を人に見せることから始めます。

人は、自分と違って言葉遣い、人生、文字の書き方、持っている様々な技術等が違います。一人一人、全部違うのが人です。先ず、自分は何者なのか、どのような考えを持っていて、どのようなことを考えているのか等を人に見せないと、人は自分を理解してくれません。

第一段階：お互いに自分を見せ合う、自分の持ち味は何なのか、自分が持っている技等を披露する。このようにして、ご縁を育てます。ソーシャルスキルを持つ私とコミュニティとの関係を作ります。

このような状態になるために、

- 活動その 1：まち歩きをして、自分が表現されている場を見つける、探す。
- 活動その 2：自分の背景や経緯等を自分の言葉と文字で、自分を語る。

第二段階：人と係る議論があり、その境界線上に人と人との「場」をつくること。

「だがしや楽校」は、コミュニケーション（売りと買いに相当する）の他、様々な暗黙知の交換や他者との関係を発見すること、自分で何かをつくれぬか等をトレースする処です。「だがしや楽校」講座の中で、「だがしや楽校」の自分店で、自分自身を生かせる原点が「だがしや楽校」と考えてください。即ち、学校や自分の人生以外で学ぶ処です。このような状態になるために

- 活動その 3：がだしや楽校で自分みせの屋台をつくり集う。

3) 社会をつくる

「だがしや楽校」は、自分と社会のあり様を現実を感じる手軽なツールとして考えました。自分は、社会にどのように関わったらいいのか？

自分が生きている社会は、同じ考えを持った人ばかりではありません、多種多様な人の集まりで社会が構成されています。私たちは、今まで知らなかった人たちの考えや知識と触れ合うことにより成長し、他者との関係性をつくることとなります。

< 第二部 > ワークショップ

1 自己紹介しよう 各テーブル毎に、4, 5人着席

某テーブルの事例紹介

Aさん：長崎、奈良、大阪、徳島等をめぐった転勤族 杉並に落ち着く予定
何か探したい。

Bさん：大阪、埼玉を経て杉並在住 調布でボラティアをしていた 杉並では？

Cさん：埼玉、稲毛を経て杉並に、四谷が実家、夫と同じころ退職、何か、今までと違うものを体験し、友をつくりたい

Dさん：杉並在住 30年、杉並区報をよく見ることから、大人塾に参加
「花咲かせたい」活動中、何かお役に立ちたい気持ちあり。

< 第三部 > ワークショップ

1 最近楽しかったことを話し合う

某テーブルの事例紹介

Eさん：だがしや楽校 09年生 「だがしや楽校 in 妙法寺」で自分みせ（手芸）出店
お礼に小さなプレゼントをいただいた時

Fさん：仲間とともに農作業を体験中、自分の役割を体感した時の喜び

Gさん：手品の趣味、杉の樹大学でも講演、「マジックを楽しむ会」を主宰
ご披露した際の笑顔がうれしい。

Hさん：だがしや楽校 09年生 自分みせ出店中。小さな子供の一举一動の反応が楽しめる。

< 第三部 > ワークショップ

1 こんなこと、こんなもの、みんなに見せ（店）ることができます。

おすそ分けタイムを取りながら

●東京都荒川区南千住の（有）宇佐美製菓のきなこ飴を松田先生が持参

きなこ飴 40個に、当たり券（楊枝の先に赤紅が付いている）15本ついている。当たればきなこ棒が貰える。

当たり券を引いた方々の意見感想を話しながら、楽しい時間を過ごしました。

私ができること

今したいこと、やってみたいこと、得意なもの等をポストイットに書き出しをする。これから、講座を通して自分のしたいことがどれだけ変容していくかを見ていきたいと思います。

事例紹介

- ・クッキー作り ・地域の姿を見ることが得意 ・硝子のコップづくり
- ・ズック鞆や袋物づくり ・体験ファームでつくる野菜 ・手芸づくり
- ・ベランダの鉢植え ・子どもと遊ぶ ・手品 ・手遊び
- ・イベント企画と構成が得意 ・皆が幸せになる食べ物やさん
- ・英語で子どもと遊ぶ ・友とつくったレシピ集
- ・自転車やおもちゃの修理 ・始末に困る古道具の処理販売・・・

< 第四部 >

本時中の講座の印象や思いついたこと等をはがき大で、「絵」「一筆」等にしておく。

1 今後のスケジュール

1) 次回 6月25日(金) 昨年のだがしや楽校講座の実践記である『緑育ての楽校』を読もう。

(注)『緑育ての楽校』発刊元：日本地域社会研究所

2) 7月2日(金)「自分のみせるもの」をお互いに見せ合おう

特異なもの、技、経験等、見せられるものを考えよう。

3) 7月23日(金) 外で、「見せ」体験

4) 8月27日(金) まち歩き 見せる場所を探そう。

5) 9月10日(金) ミニ「だがしや楽校」を開こう